

一般演題 II 悪性腫瘍 (31~45)

31. ^{67}Ga -citrate による悪性腫瘍の診断 (第1報)

肺癌のシンチグラム

都立大久保病院 放射線科
 木下 文雄 前川 全
 外科
 牛尾 暉夫 西川 正夫
 内科
 間森 坦 山形 正和

〔研究目的〕 すべての悪性腫瘍に共通して選択的に摂取される RI については、多くの研究者により諸種の RI について検討されてきたが、動物実験は兎も角、人体に應用して広く一般臨床検査として用いられているものは今日までない。Edwards は ^{67}Ga -citrate を用い、ホヂキン病および悪性リンパ腫瘍にこれが高率に腫瘍に集積されることを発表した。われわれもこれを追試し、特に肺癌および肺疾患に今回は重点を置き、その診断価値の評価を試みた。

〔研究方法〕 この10カ月間に本院に来院した、肺癌20例、肺転移癌3例(子宮癌1例、乳癌1例、その他1例)、肺炎1例、肺結核2例、サルコイドーシス1例、 ^{60}Co 照射中または照射後の肺癌5例、計32例を研究対象とした。

研究方法は ^{67}Ga -citrate 2mCi を静注後、大部分は48時間後、1部の症例は 24, 48, 72, 1週後に scan を行ない、80Kev 以上の γ 線を利用して計測した。

〔研究結果〕 1) 肺癌では全例に明瞭な陽性像を示し、特に縦隔内、心陰影の後方などに存する胸部 X 線写真で読影の困難な場合、胸水が貯溜して腫瘍の存否、位置、範囲の不明な場合、有用な情報を提供しえた。2) 他臓器癌の肺転移、また肺癌のリンパ腺転移にも良く明瞭な陽性像を示した。3) 併し気管支肺炎、肺結核の場合も活動性、滲出性の病変のある場合は陽性像を示すことを知った。4) ザルコイドーシスも1例ではあるが、著明な陽性像を示した。5) 以上 ^{67}Ga -citrate は従来の孰れの核種よりも高率かつ明瞭に肺癌の存在、位置、範囲を陽性像として描出したが、炎症にも同様にその病期、病態により高率に摂取され、実際の臨床上の評価、応用方法などには未だ多くの問題があり、更に症例を重ね検討する必要があることを知った。

32. 肺癌に対する ^{67}Ga -citrate の使用経験

広島大学 第2内科

佐々木正博 河面 博久
 第2外科 児玉 求
 中央放射線部 勝田 静知

1969年 Edward らが ^{67}Ga -citrate を用いてホヂキン病患者の骨スキャンを行なったところ、頸部リンパ節に陽性像をえたと報告している。最近われわれは比較的癌に特異的に摂取されないといわれている ^{67}Ga -citrate を胸部悪性疾患患者、およびその他の各種胸部疾患患者に投与し、若干の臨床的検討を行なったのでその成績を発表する。

方法: ^{67}Ga -citrate を静注用クエン酸ソーダ液と共に 1.5 mCi ~ 2.0 mCi を静注し、24時間ないし48時間後に、まず全身線スキャンを行ない、特異的な ^{67}Ga の摂取部位の有無を検索し、引き続き肺シンチスキャンニングを行なった。

結果: 腫瘍の大きさが全例 3 cm 以上の原発性肺癌8例では組織像に関係なく腫瘍部に一致して陽性像を描記できた。1部の症例では頸部リンパ節転移巣骨転移巣にも明らかな陽性像をみた。また縦隔洞にもかなりの陽性像を呈するものがあった。リンパ肉腫の1例(縦隔へのコバルト照射後)では両側肺野への取り込みはなく、縦隔に中等度の取り込みがみられた。

対照として選んだ正常例では両側肺野には全くの ^{67}Ga の取り込みはみられないが、縦隔上部に比較的僅少ではあるが ^{67}Ga の取り込みを示す例があった。

中葉症候群を伴っている慢性水管支炎の1例および肺化膿症の1例では病巣部に一致して中等度の取り込みをみた。硬化性肺結核の1例では肺癌と同じように明らかな ^{67}Ga の取り込みがみられた。結核腫の1例では正常肺にみられるように ^{67}Ga の取り込みはみられなかったが、縦隔上部に軽度の取り込みがみられた。

肺シンチグラムは良性悪性に関係なく、 ^{67}Ga -citrate の投与量によってかなり陽性像の描出に差異があるように思われる。